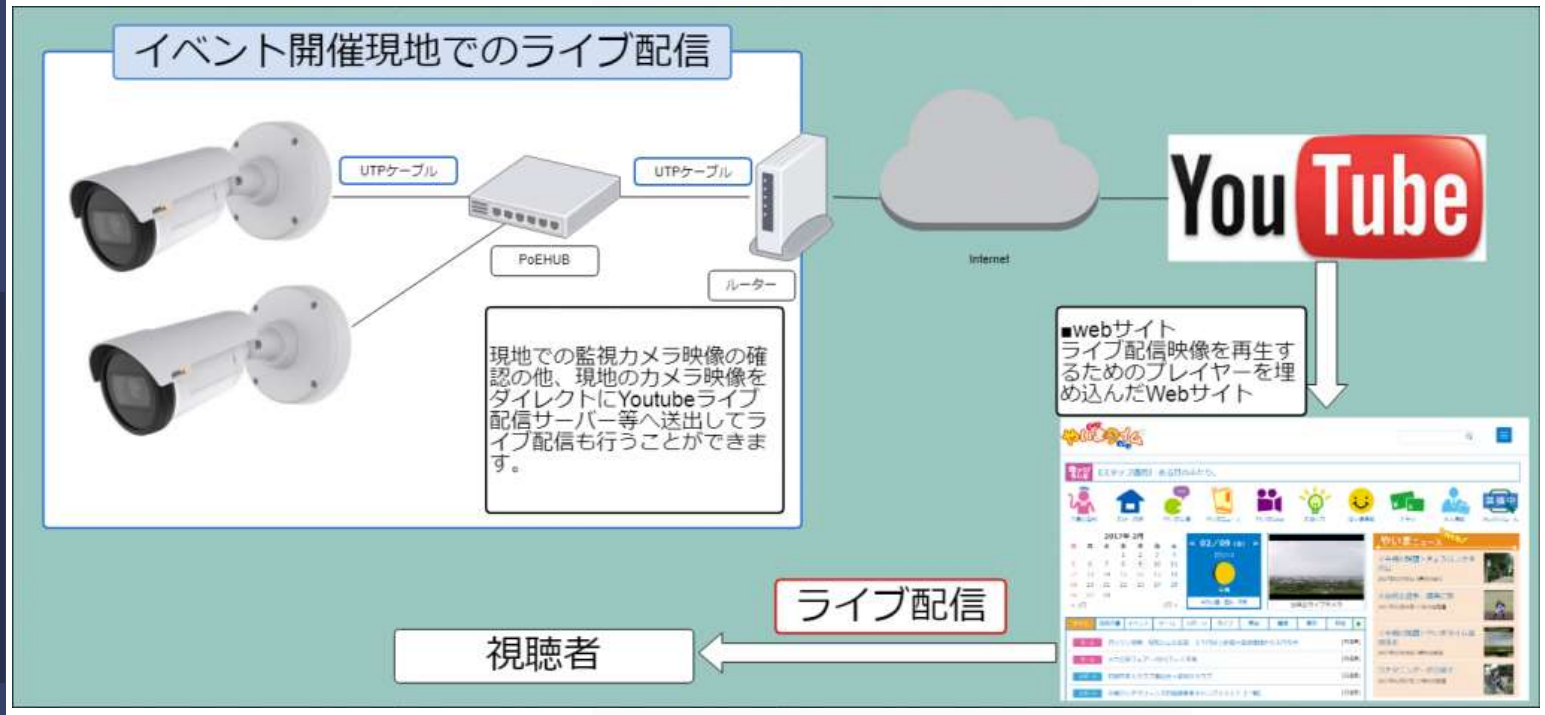
コムワークス

ライブ配信カメラと導入事例

ライブ配信構成図



パソコンや配信用機材が必要なく
カメラ単体でライブ配信を行うことができる。

ライブ配信で多い屋外の設置にも標準対応。

ポイント

- カメラの選定
- 導入事例とシステム紹介
- ライブ配信カメラで重要なこと

カメラの選定

- 設置場所や映像内容に応じて適切なモデルを選択
- 屋内or屋外
- インターネット環境
- 電源
- 配信映像内容、・映像演出
- 音声

導入事例とシステム紹介

- スキー場ゲレンデ

天候や混雑状況、積雪状況確認など

雪の付着を減らすためヒーターを追加するケースもあり。

- 駐車場の混雑具合

施設などの駐車場の駐車台数から駐車場空き状況や施設の混雑状況をお知らせ。広角で広い範囲を見渡せるカメラを採用。

- 鳥の餌場

特定の方にとって興味がある趣味に関わる映像などの配信。他に鉄道など。

遠隔からカメラ方向を変更できるような仕組みを導入し、時間帯や季節などで異なる方向の映像配信を行っている。

- 雄大な景色

富士山などに代表される自然の雄大な景色の配信は安定した人気がある。

4K解像度の広角カメラを採用し、広い範囲をきれいな映像で配信。

- 観光地などの混雑状況を配信

プライバシー保護のため、あえて画質を落として、全体的な混雑状況を市民や観光客にお知らせするため配信。

画面内の人数をカウントするAIシステムなどと連携し、特定の時間帯の人数データも同時取得。

- お天気カメラ

いわゆるお天気カメラという位置づけで街中やさまざまな場所に設置されている。その場所の現在の様子をリアルタイムに見ることができる。ネットワークが無い環境が多く、通信にはLTEルーターが活用される。

ライブ配信カメラで重要なこと

- 目に見えない性能の重要性
- 屋外での高い環境耐用性
- 継続・安定配信のためのエンジン
- トラブル時の対処
- 配信プラットフォームの理解
- 充実した情報発信機能